

「産業大県」いばらき

鹿島コンビナートのある神栖市沖に建設される洋上風力発電施設の完成イメージ



再生可能エネルギー

風力発電の一大拠点に メガソーラーも加速中

茨城県では、風力発電や太陽光発電といった再生可能エネルギーの導入に向けた設備建設が広がっている。国の再生可能エネルギー全量買取制度を受け、事業者が積極的に参入し、電力供給に役買っている。一方、東京電力も鹿島コンビナートでの火力発電所の能力を高める計画だ。

南北に長い海岸線を持ち、コンビナートを抱える鹿島地域には、44基の風力発電施設が稼働している。県は海上を風力発電の生産基地にするため、事業者を公募した。丸紅とウィンド・パワー・エナジー(神戸市)の2社が出力5000キロワット(5.0メガワット)の風車計50基程度を建設し、国内初の洋上風力発電施設が稼働していくことになる。ウィンド・パワーは、来年にも神栖沖に自社で8基を増設し、計19基を稼働させる。



LNGを積んだタンカー

南の阿見町では英弘精機(東京)、美浦村ではスカイソーラージャパンがそれぞれ大規模ソーラーを計画している。

供給に課題も出ており、既存の火発の能力向上は産業界の心配の種でもある。このため茨城県ではエネルギー増強の動きも後押しする。

東電は鹿島火発(440万キロワット)内にガスタービン設備(80万キロワット)を稼働、2014年には発電効率の高いコンバインドサイクル方式のガスタービン設備(124万キロワット)に変更する。

茨城港日立港区(日立市)では、ガス最大手の東京ガス(本社東京)がLNG(液化天然ガス)備蓄基地を建設し、北関東を中心に年間最大100万トンの都市ガスの製造・供給を見込む。各エネルギー設備の増強は、今後、企業誘致など波及効果への期待が掛かる。

火力や天然ガス 設備増強の動き

大規模太陽光発電施設(メガソーラー)の建設や計画も増えている。美樹工業(兵庫県)は、つくば市にメガソーラーを建設、稼働した。県

再生可能エネルギー以外でも電力やエネルギー供給の態勢は着々と進む。震災と原発事故後はエネルギー

茨城空港



航空自衛隊百里基地との民間共用により、2010年3月に国内98番目の空港として開港した茨城空港。就航便は上海便(週6便)

増便や新規路線の開拓 LCC中心に利用促進

と札幌(新千歳)、神戸に加入、今年は那覇便も加わった。このほかソウル便、台北間のチャーター便も運航されてきた。増便や新規路線の開拓に期待が高まる。茨城空港は首都圏の成田、羽田に次ぐ第3空港として、格安航空(LCC)が入りやすい空港に努めている。茨城と上海を直行便で結ぶ春秋航空機。LCCの利便性が高まり、中国とのビジネス利用が活発になっている。小美玉市の茨城空港

港湾

北関東へアクセス向上 重要度増す常陸那珂港



県内には茨城港(日立、常陸那珂港、つくば)、日立・常陸那珂港、つくば、常陸那珂港、鹿島港といった重要港湾が整備されている。いずれも東日本大震災により被害を受けたものの、復旧が進み着実な回復基調をたどる。2011年の県内(鹿島港)は前年同期比58.0%増となる44.86億円。過

重要港湾として活用が進む常陸那珂港(上)と鹿島港(下)



いつか世界に誇れる紙へ。

手ざわり、やさしく。書きごち、やさしく。そしてなにより、環境にやさしい。につぼんの紙、竹紙[Takegami]。

私たちは、日本の竹だけを100%原料とする紙製品を取り扱う唯一の総合製紙会社です。このたび、その「竹紙」の製造販売を通じての当社の取り組みに多大なる評価を頂き、最も優れたエコ製品に贈られるエコプロダクツ大賞「農林水産大臣賞」を受賞いたしました。竹の有効活用は、放置竹林に隣接する森林や生物多様性の保全に役立ちます。まだまだ限られた生産量ですが、その独特の風合い、趣きのある質感は、製品化を進めることで、多くの人を魅了し、さらなる環境保全にもつながっていくことでしょう。私たちはその可能性を信じ、につぼんの紙、竹紙の普及に努めてまいります。

紙だからこそできること。
中越パルプ工業株式会社
www.chuetsu-pulp.co.jp

※主催：エコプロダクツ大賞推進協議会
http://www.gef.or.jp/ecoproducts/

